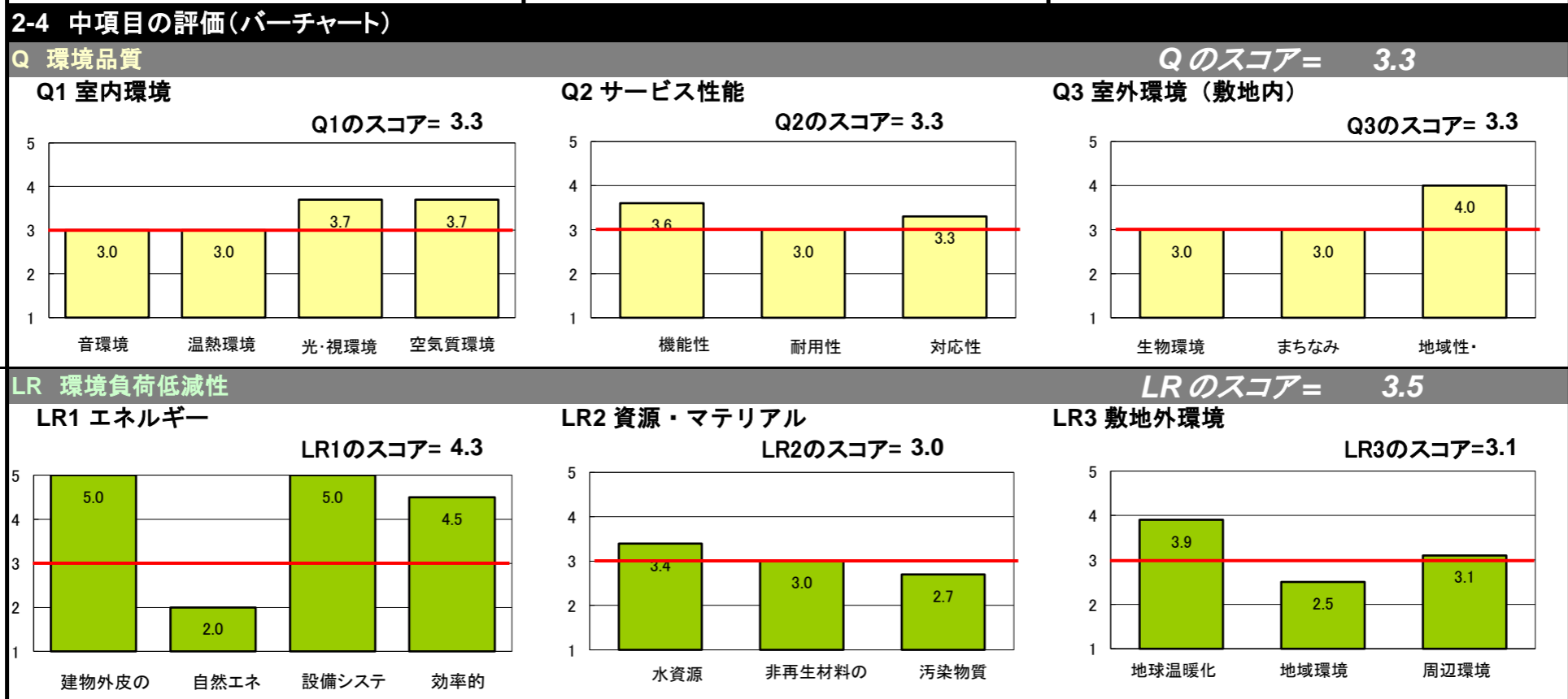
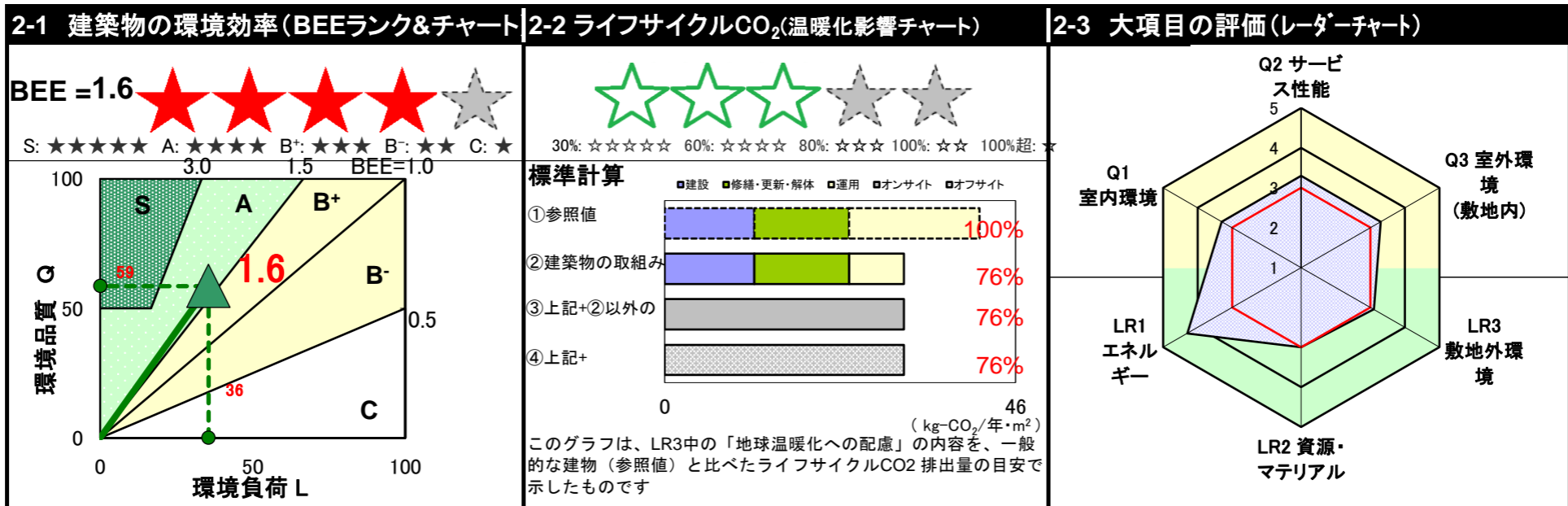


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)瀬戸市立小中一貫校 (校舎)	階数	地上2階地下1階
建設地	愛知県瀬戸市中山町1-13,1-57(一部)	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居地域	平均居住人員	1,230 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2018年3月16日
敷地面積	37,270 m ²	作成者	河村 佳高
建築面積	7,239 m ²	確認日	2018年3月16日
延床面積	12,134 m ²	確認者	河村 佳高



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.9</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>19.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.0</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>地元作家による陶磁器サイン</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.3	
1 音環境														3.0	
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														3.0	
2 温熱環境														3.0	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.7	
3.1 昼光利用														3.8	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														3.0	
3 昼光利用設備														5.0	
ライトシェル、ハイサイドライト採用															
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														5.0	
自動調光を採用															
4 空気質環境														3.7	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														3.0	
F☆☆☆☆を利用している。															
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														4.0	
1 CO ₂ の監視														3.0	
2 喫煙の制御														5.0	
敷地内禁煙としている															
Q2 サービス性能														3.3	
1 機能性														3.6	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														3.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
独自															
1.2 心理性・快適性														5.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														3.0	
天井高2.9m															
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														5.0	
内装木質化による計画で、児童に配慮している。															
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.1	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
給水管:SGP-VA、排水管:VPを採用															
2.4 信頼性														3.0	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														3.0	

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり		②	0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		階高4mとしています。		5.0	0.60	4.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	3.0	0.40	3.0	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	3.0	-		
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	4.0	0.30	-	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	空間提供、建物内外を連携させる中庭、ピロティ、バルコニー		5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI結果=0.63		3.0	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	2.0	0.20	-	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			BEI結果=0.43		3.0	5.0	0.30	-	5.0
4 効率的運用			0.2	4.5	0.20	-	-	-	4.5
集合住宅以外の評価			1.0	4.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		BEMSを導入、システムの性能評価を行う		3.0	5.0	0.50	-	
4.2	運用管理体制		ZEB実証を目標にエネルギーの使用状況を報告予定		3.0	4.0	0.50	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			洗面は自動水栓・便器は節水FVを採用		3.0	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-		3.0	3.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	陶磁器廃材を利用した舗装用ブロック		3.0	3.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	3.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	2.7	0.22	-	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	2.6	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	2.0	0.33	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.33	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率: 76%		-	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.33	-	-	-	
3	悪臭		-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.60	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	0.20	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.20	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		目的に応じた適切な照明レベル、広告物照明なし		-	4.0	0.70	-	
2	屋光の建物外壁(による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)瀬戸市立小中一貫校 (校舎棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:19.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				2.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	地元作家による陶磁器サイン

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ①地域との協働の関係づくりを促進する学校 ②将来にわたっての持続性を持った学校 ③永く郷土への愛着を持たせることができる学校
Q1 室内環境	<p>建基法規制対象外となる建築材料にもF☆☆☆☆採用するとともに館内を禁煙として、室内の空気を健全に保っています。</p> <p>照明設備の自動調光制御を行って、昼光を積極的に取り入れています。共用空間(登り窯ステップ)の吹抜け部分にライトシェルフを兼ねた庇+天井で拡散、ハイサイドライトも併用で昼光利用を行っています。</p>
Q2 サービス性能	<p>教室は2.9mを確保し、ゆとりの天井高さ。</p> <p>陶磁器産地である瀬戸の地域性を活かした内装コンセプトと、内観パースによる内装計画を検討しています。また、コンセプトと室用途に応じた照明計画を検討しています。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>ビオトープを設置し、環境学習に利用できるようにしています。</p> <p>既存樹の保全と、自生種(アラカン、ヤマモモ、ヤマモミジ、クヌギ、ヤマザクラ)を積極的に採用した植栽計画を行っています。</p> <p>地元作家の陶磁器をサインに採用しています。</p> <p>地元の人が自由に通れる歩道と玄関前広場を提供しています。</p> <p>中庭、バルコニー、玄関ピロティ等、内外連続の中間領域を形成しています。</p>
LR1 エネルギー	<p>外皮には適切な断熱を施し、ガラスには複層ガラスを採用して、熱負荷を抑制しています。また、電気とガスのベストミックス、CGSの廃熱回収、全熱交換器、LED照明、調光制御、太陽熱集熱、太陽光発電などを採用して、設備の高効率化を図っています。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水器具の採用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>駐車スペースを十分に確保したゆとりある建物配置</p>
その他	<p>特になし。</p>